

「ごみ」と「資源」の再発見

ねらい・目的



札幌市では“ごみ減量”のために各家庭などで「4R」（ごみを発生源から断つ **Refuse**、ごみをへらす **Reduce**、繰り返し使う **Reuse**、再生資源に戻す **Recycle**）に取り組むことを進めています。

『集団資源回収』や『ごみ処理関連施設見学』など地域全体での活動を通じて、ごみ分別の大切さを実感し、ごみについてもう一度考えてもらうことをねらいとします。

取り組みの背景として



札幌市の「家庭のごみ量」は横ばいの状態が続いています。

2006年度(平成18年度)、1人が1日に出す家庭ごみの量は平均約630gになっており、札幌市内の1年間の総量は、約48万5千トンというばく大な量になります。

現在は

ごみの収集、運搬、焼却、埋め立て処理のために多大なエネルギーを費やしており、環境に大きな負担をかけ続けています。

そこで

地域ぐるみで、ごみを減量する取り組みの必要性をよく理解し“ごみ減量につながる行動を定着させること”が必要です。

取り組み項目(実施方法)



取り組み1 家庭でしっかり、ごみの分別を行いましょう

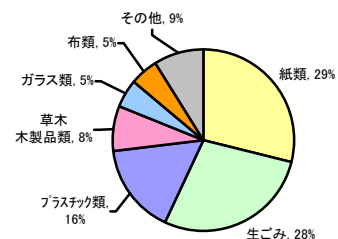
(参考)「ごみ分別辞典：ゴミダス」

- 一般家庭からごみとして排出される約1,100品目の分別方法が50音順に整理されています。
札幌市清掃ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/seiso/bunbetsu/bunbetsu.html>

ごみを発生させないことも重要です。
そのために、下のホームページもご覧ください。

- ごみとして出す前に
<http://www.city.sapporo.jp/somu/benri/20-01.html>

【家庭から出るごみの重さによる割合】



2005年度(平成17年度)
家庭系一般廃棄物組成調査結果より

取り組み2

“地域の美化活動”を通じ「ごみと資源」を考えてみましょう

“地域の美化活動（ごみ拾い等）”は、地域のみんなが一緒になって、ポイ捨てなどを行わない基本マナーの重要性や、省資源やごみ減量について考えるきっかけになります。

地域の環境活動として、まず“地域の美化活動”から始めてみてはいかがでしょうか。

取り組み3

集団資源回収を、町内会やPTAで実施してみましょう

集団資源回収とは？

家庭から出る古新聞などの資源を地域の皆さんが協力して集め、リサイクルのルートに乗せる仕組みが「集団資源回収」です。

資源回収する品目は？

○紙類

新聞、雑誌、チラシ、ダンボール、紙パック など。

○びん類、ペットボトル

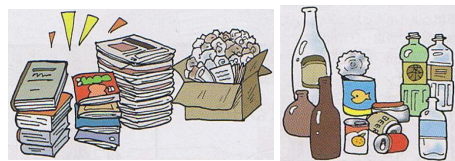
一升びん、ビールびんなどのリターナブルびん、ペットボトルなど。 ※キャップを外して

○アルミ缶・缶・金属類

アルミ缶はまとめて分別する。その他、鉄・銅製の鍋、アルミニウムなど。
※タイヤのアルミホイール・アルミサッシなど

○布類

シーツ、タオル、下着などの薄手の布類（綿50%以上）



奨励金の対象団体は？

町内会、子ども会、老人クラブ、PTA、管理組合、およびその他住民団体です。

（主として営利を目的とする団体は除きます）

実施手順は？

手順1

資源回収の実施を町内会やPTAに相談してみましょう。

手順2

回収業者に、いつ実施できるのか確認しましょう。
札幌市に、集団資源回収実施団体として登録しましょう。

手順3

『集団資源回収』の実施周知を、回覧板などで行いましょう。

ポイント

「収益金は地域美化のための花の苗購入費に使われます」など
集団資源回収後の効果を書くと、参加意欲が高まります。

手順4

集団資源回収が終わった後、札幌市の「ごみ減量推進課」に奨励金の申請をしましょう。（問い合わせ先：011-211-2928）



（参考）札幌市清掃ホームページ「みんなで進めよう集団資源回収！」

http://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/shudan_kaihu01.html

取り組み4 「ごみ処理関連施設」へ見学に行きましょう

ごみステーションに出されたごみは、毎日パッカー車が運んでいます。その先でどのように処理されているのか知らない人が多いのではないのでしょうか。

“燃やせるごみ”は清掃工場へ、“資源ごみ”はリサイクル（資源選別センター）へ、“燃やせないごみ”は埋立地に運ばれます。地域の皆さんで「ごみ処理関連施設」に見学に行って、「ごみ」についての理解を深めてみませんか？

札幌には、次のような施設がありますので、足を運んでみてください。

おすすめ見学先

■リサイクル関連施設

①札幌市リサイクル団地（ペットボトル、アルミなど資源別に工場があり見学できます）

〔所在地〕札幌市東区中沼町 45 番地 19

〔お問い合わせ先〕㈱札幌リサイクル公社（電話：011-251-5300）

<http://www.city.sapporo.jp/seiso/gaiyou/redanchi.html>

②札幌市リサイクルプラザ宮の沢（資源リサイクルコーナーなどを気軽に見学できます）

〔所在地〕札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 ちえりあ 1 階 電話：011-671-4153

<http://www.sapporo530.or.jp/>

③札幌市リサイクルプラザ発寒工房（家具や自転車の修理をしています）

〔所在地〕札幌市西区発寒 15 条 14 丁目 電話：011-662-7815

<http://www.city.sapporo.jp/seiso/recycleplaza/hassamu/hassamu.html>

■清掃工場

札幌市白石清掃工場（札幌のごみ処理についての歴史も学べます）

〔所在地〕札幌市白石区東米里 2170 番地 1 電話：011-876-1710

http://www.city.sapporo.jp/seiso/sikumi/sirosi_kozyo_index.html

実施手順は？

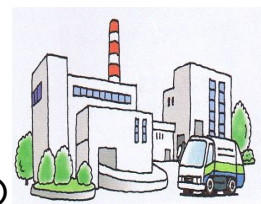
手順 1 まず、町内会などに相談してみましょう。

手順 2 見学施設に問い合わせで見ましょう。（日程・時間・人数等）

手順 3 環境にやさしい交通手段を検討しましょう。（公共交通機関、貸切バス等）

手順 4 回覧板などで見学会の周知を行いましょう。
集団資源回収の奨励金を、「見学会」実施費用の一部に充てるなどし、「ごみと資源」について広く学ぶ機会を持ちましょう。

手順 5 施設見学会を実施しましょう。
「ごみ」や「リサイクル製品」に関して話をしてみましょう。



取り組み効果



効果 1 地域で「ごみと資源」について考える機会となります

地域で『集団資源回収』や『施設見学会』に取り組むことで、地域のみなさんと、ごみについて考える機会となります。

効果 2 札幌市の奨励金を地域活動に役立てられます！

集団資源回収実施団体として札幌市に登録すると、集団資源回収後に、資源回収量 1 kg につき 2 円の奨励金が札幌市から交付されます。

効果 3 地域が活性化します！

町内会、子ども会、老人クラブ、PTA、管理組合、その他住民団体で行うことで、地域内組織の活性化が期待されます。

他のプログラムとのつながり



■牛乳パックリサイクルを考えよう（小学校編）

牛乳パックリサイクルを通じて、森林資源の保護や節水などに目を向ける。

■給食用牛乳パックをリサイクルしよう（中学・高校編）

中学校の生徒会を中心に学校全体で牛乳パックのリサイクルに取り組む。

参考資料等



1 【ごみ減量の4R】

1. Refuse (リフューズ)

ごみを発生源で断つ

ごみになるものは
「断る・買わない・持ち込まない」

2. Reduce (リデュース)

ごみを減らす

無駄をなくして
「ごみを出さない・作らない」

3. Reuse (リユース)

繰り返し使う

捨てる前にもう一度考えよう

4. Recycle (リサイクル)

再生資源に戻す

捨て方次第で、ごみが資源に！

2 【リサイクル識別マーク】

「資源の有効な利用の促進に関する法律」により表示が義務づけられている識別表示と、自主的に採用されている容器包装のマークです。

■参考ホームページ（社団法人食品容器環境美化協会） <http://www.kankyobika.or.jp/>



アルミ缶



プラスチック製
容器包装



紙製の飲料用
紙パック



スチール缶



ペットボトル



紙製容器包装

3 【さっぽろGOMIマガジン】

札幌市のごみ問題について、ごみ処理の現状やごみ減量・リサイクルの必要性などをわかりやすくお知らせするため「さっぽろGOMIマガジン」を発行しています。市役所、区役所、清掃事務所等で配布しているほか、次のホームページでも紹介しています。

http://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/gomi_magazine/index.html

実践例 【地域の美化活動事例(アダプト・プログラム):札幌市西区の取り組み】

西区では、これまで公園からくずかごを撤去したり、琴似発寒川の一斉清掃を行ったりするなど町内会をはじめとする地元住民の皆さんと協力して環境美化に積極的に取り組んでいます。

http://www.city.sapporo.jp/nishi/machizukuri/machizukuri/adopt/adopt_pg.html

コラム1 「モエレ沼公園」は、以前は埋立地だった

札幌市東区にある「モエレ沼公園」は、半円状のモエレ沼の内側を中心に沼の岸も含みます。1988年(昭和63年)に着工して、2005年(平成17年)7月1日に完成、オープンしました。面積はモエレ沼の水面もあわせると1.89k㎡あります。2002年度(平成14年度)にグッドデザイン大賞も受賞しました。

モエレ沼公園の整備は、札幌市の市街地の周囲を緑化しようという「環状グリーンベルト構想」からスタートしました。1979年(昭和54年)からごみの搬入・埋め立てが開始され、公園の基盤整備は1982年(昭和57年)から始まり、ごみの埋め立てが終了したのが1990年(平成2年)。それまで埋め立てられた廃棄物の量は約270万トンに達しました。

なお、公園の設計は、日系米国人の彫刻家イサム・ノグチ氏が行いました。

コラム2 札幌の埋立地は、あと16年でなくなってしまう

札幌では、2005年(平成17年)4月から2006年(平成18年)3月までの1年間に、19万9千トンのごみを埋め立て処分しました。その「燃やせないごみ」や「燃やせるごみを焼却した灰」などが、手稲区山口と厚別区山本にある埋立地に集められています。

札幌市内で、ごみを埋め立てることのできる土地の面積は、約214万㎡です。しかし、年々出されるごみの量がこのまま減らなければ、あと16年で埋立地はいっぱいになってしまいます。

新しい埋立地をつくるには、場所の確保や環境影響評価などで最低でも20年の準備期間が必要で、単純に計算しても「ごみの行き場のない4年間」ができることになります。